

としけいかくどうろ へらえきどおりせん えきまえひろば
都市計画道路 平良駅通線 (駅前広場)

鉄道とバスの乗り継ぎシームレス化による交通結節機能の強化

供用後



供用前



供用後



写真 平良駅（現廿日市市役所前駅）

事業の各段階のポイント

計画策定時のポイント

多様な都市機能を備えた住みやすく賑わいのある廿日市市の拠点都市の形成を目指すため策定された「廿日市市シビックコア地区整備計画（H16.9）」において、シビックコア地区に設定されている新宮地区は、都市計画道路や駅前広場の整備に伴い交通結節点の強化が図られ、新宮地区開発事業の具体化に併せてタウンセンターゾーンの核としてふさわしい都市形成がなされ、特に鉄道とバス、自転車などとの乗継ぎを円滑にすることでより利便性の高い地区になっていくことが期待されている。

本地区を通る、広島電鉄宮島線平良駅から国道2号までのシンボル道路「ふれあい通り（都市計画道路平良駅通線）」は、平成14年までに部分供用を始めており、駅前付近の整備を残す形となっていた。しかし、鉄道ホームの形態が既存のままでは、駅前を整備しても、交通広場と鉄道ホームが離れていることから、歩行者動線や、階段を利用せざるを得ない状況が改善されないことなど、駅の利便性が不十分なままとなり、交通結節点の機能強化の課題を鉄道施設側に残すことが懸念された。

事業実施期間中のポイント

～多様な事業を並行して実施することで、残されていた交通機能の課題を解決～

交通結節点の機能強化に残された課題を解決するため、交通広場を整備する街路事業と並行して、まちづくり総合支援事業による駅周辺の施設整備を行うとともに、第3セクターである㈱広島バスセンターが幹線鉄道等活性化事業の乗継円滑化工事を着手することになった。

これらの事業を組み合わせることにより、交通広場前への鉄道ホームの移転、上りと下りのホームを連絡する通路の設置、バス停上屋とホーム上屋の一体化といった施設の整備、駐輪場、福祉便所整備などを行うことが可能となった。

事業完了後のポイント

～交通・文化・医療福祉の集約拠点の形成を促進～

平成18年6月1日に、平良駅通線は全線開通となった。駅までのバスの乗り入れが可能となり、高い交通拠点性を形成するとともに、自転車や歩行者の駅へのアクセス性の向上、駅周辺におけるバリアフリー化による快適性の向上、乗り換えで継ぎ目がないことによる利便性の向上など、交通結節点としての機能強化に大きく寄与した。実際に、鉄道利用者の増加や市内外からの来訪者の増加など、大きな効果が発現している。

当該地区は、新しいタウンセンターゾーンの核として、今後は臨海ゾーンにおける公有水面埋立事業も始まり、水辺の魅力を活かした賑わいのある街並みが形成される。交通拠点の形成により、さらなる都市機能の強化を進めることで、廿日市市が行政・文化・医療福祉の拠点都市としてさらに飛躍することが期待される。

(注)事業の各段階のポイントは、各事業関係者より情報提供いただいた内容を取りまとめたものです。

事業の位置づけや背景

廿日市市では、新しい都市の中心として、広域的な交通条件に恵まれた新宮地区において、シビックコア地区の形成を目指してまちづくりを進めている。

この新宮地区は都市的にぎわい、快適な空間、良好な景観を備えた拠点性の高いまちづくりを進めており、平良駅通線は地区の骨格となるシンボルロードの一部として位置づけられ、交通結節点機能強化を図ることとなった。

地区等の問題点・課題

当該地区は、広島電鉄平良駅を中心として市民の集まる地区となっており、市の都市的機能の中心として、市役所、文化センター、健康福祉センター、郵便局等の公共施設や民間の商業施設が配置されている。

これら各施設の連絡強化のみでなく、周辺からの交通結節点として機能強化と都市交通の利便性の向上及び交通の円滑化、また歩行者に優しい道路空間の整備を行うことが求められた。

事業の目標・整備方針

●鉄道とバスにおける乗り継ぎのシームレス化

駅周辺を幹線鉄道等活性化事業などと併せて整備を行い、乗り継ぎの円滑化とともに交通結節点拠点機能を強化し、新しい交通拠点が形成されることにより、新宮地区の拠点形成を高める。

事業内容

新宮地区の各都市施設を結ぶ都市計画道路として、道路幅員20mで道路延長310m及び駅前交通広場3,200㎡を整備したものである。

シンボルロードとしての位置づけのなかで、都市景観の向上を目指し、電線類の地中化やバリアフリー化等を行い、安全で快適な歩行空間の確保や駅及び周辺施設へのアクセスの向上を図る。

■事業計画諸元

○事業名：交通結節点改善事業

○事業主体：廿日市市

○位置：広島県廿日市市新宮1丁目

○総事業費：約32億円

○事業概要：

・事業規模：L=310m、W=20m、A=3,200㎡

・車線数：2車線

・車道舗装：

排水性舗装を採用することで、雨天時の水はね防止、夜間や雨天時における視認性の向上、車両走行による騒音の低減などの効果を期待

・歩道舗装：

透水性インターロッキングブロックにより、都市景観を向上し、横断勾配のゆるやかな歩行者動線確保

・その他整備状況：右写真参照

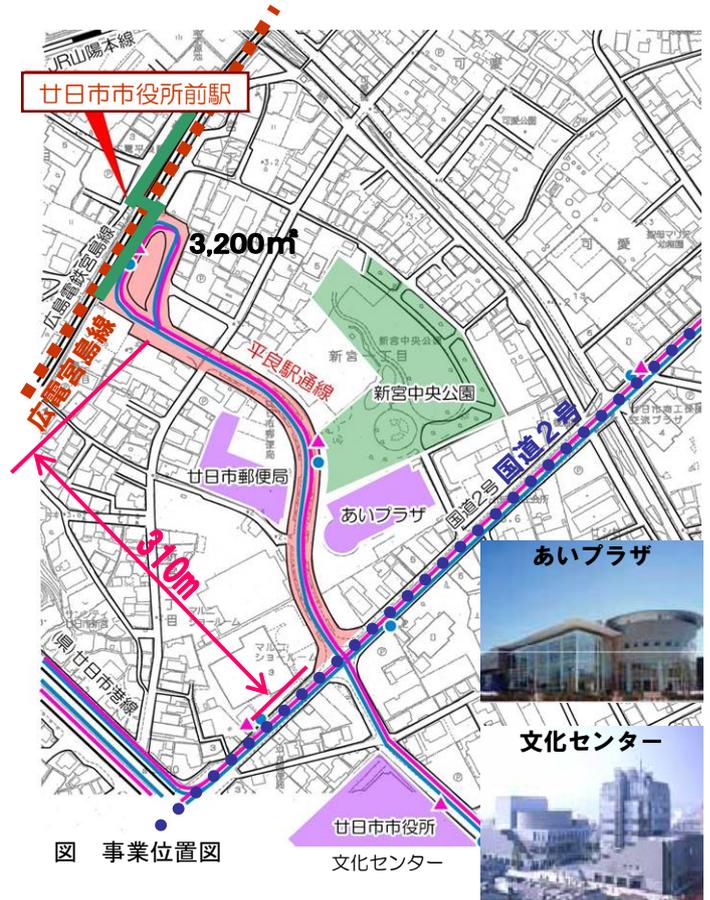


図 事業位置図

■事業経緯

平成9年12月	都市計画決定
平成10年2月	事業認可
平成10年度	事業着手（用地交渉開始）
平成12年度	工事着手（電線共同溝整備）
平成14年5月	一部供用開始 （国道2号～市道旧国道線）
平成18年6月	全線供用開始 （残区間、駅前広場供用開始）



写真 トランジットセンター
（同一平面の電停（左）とバス停（右））

写真 シンボルロード
通称ふれあい通り



写真 改修され乗り継ぎがスムーズになった駐輪場

写真 コミュニティバスの拠点となる駅前

事業効果

駅前広場において、鉄道とバスにおける乗り継ぎのシームレス化を図ることにより、都市交通の利便性が大幅に向上した。

乗り継ぎの利便性の向上

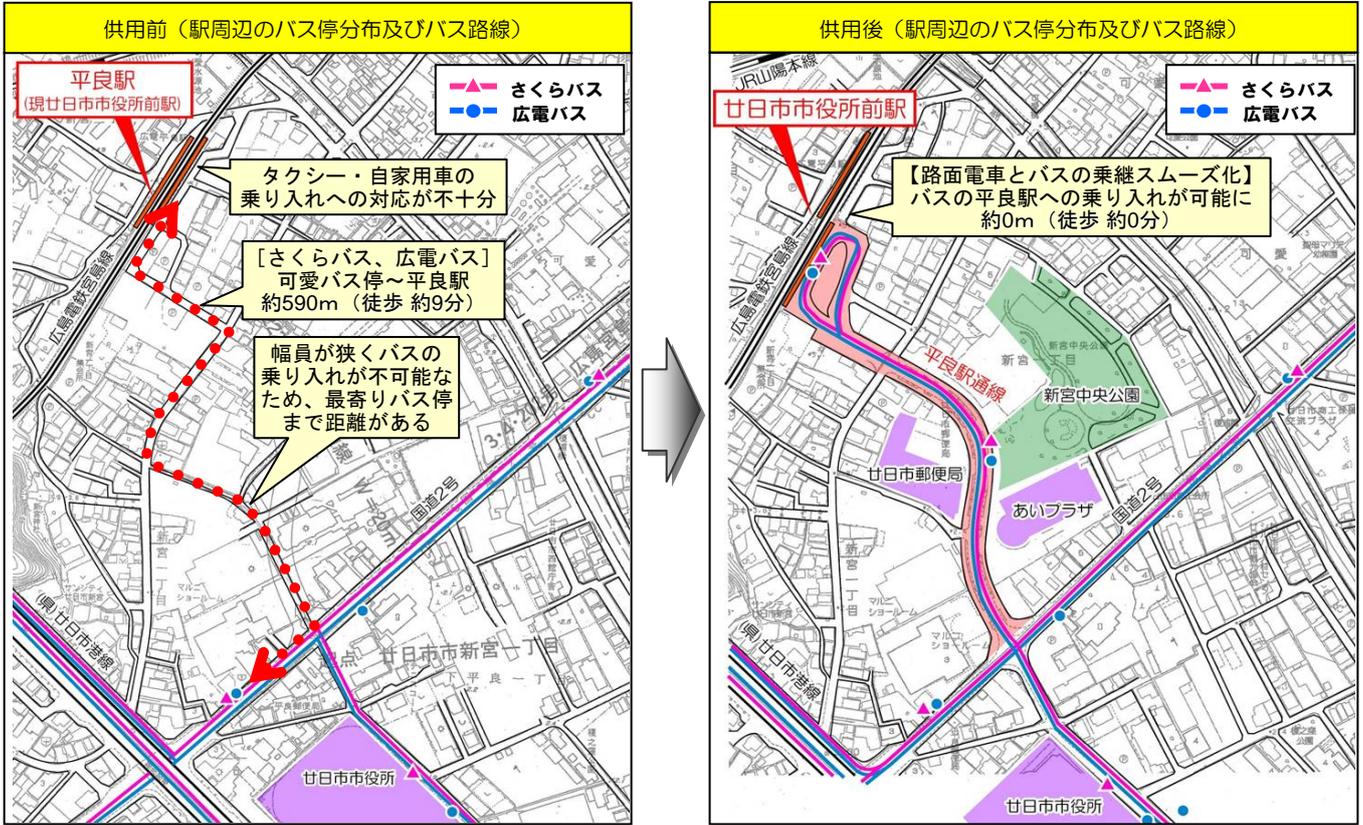


図 平良駅（現廿日市市役所前駅）周辺の交通環境の変化

◎鉄道利用者数の増加

約24.3%増加（H17→H19）

◎所要時間の大幅な短縮

- ・駅から市役所への移動時間の短縮 10分⇒8分
- ・鉄道からバスへの乗換時間の短縮 9分⇒0分

道路空間機能の向上



写真 駅への道路は幅員が狭くバスの乗り入れが困難な状況



写真 駅前に乗り入れるバス路線を新設



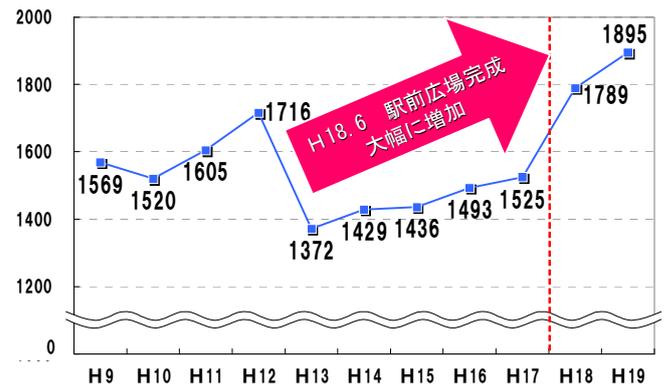
写真 駅につながる道路は歩道未設置で歩車分離されていない状況



写真 バリアフリーに対応した歩道が整備され、歩行者の安全も向上

利用者数の向上

(人/日)



出典：廿日市市統計書（各年）

図 平良駅（現廿日市市役所前駅）の一日平均乗降客数

事業が受けた評価

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰
(第1回 平成20年3月10日)

全国街路事業促進協議会会長賞
(第19回 平成19年6月7日)